

平成23年度
実施事業

事務事業名 児童・生徒文化振興助成金

区分	No	名称
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち
節	3	市民の個性ある文化活動と文化を育む
施策	1	市民の文化・芸術活動の育成・支援
小分類	2	文化活動を担う人づくり
主要な施策	1	文化活動との出会いの場づくり
事務事業番号	001	事業開始年度 平成 7 年度 事業終了年度 平成 - 年度 会計種別 一般会計

部 名	教育部	グループ名	社会教育グループ
-----	-----	-------	----------

事務事業の概要

《Plan・Do》

目 的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	文化活動を行う児童・生徒の保護者の負担を軽減し、児童等の文化活動の向上を図ることを目的とする。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成23年度の実績を具体的に記入してください)
	児童、生徒が学校で行った文化活動で全国及び北海道大会に参加する場合、その経費の一部を助成する。 (1) 助成の範囲・・・大会開催要項等に定める登録範囲以内の出場者 (2) 助成金額・・・全国大会：団体出場 対象経費の1/5以内、個人出場 対象経費の1/4以内 パック料金等の場合 団体出場 総額×助成金対象者/大会参加者×1/5 個人出場 総額×助成金対象者/大会参加者×1/4 全道大会：1人 3,000円。胆振管内の大会は助成対象外。 【平成23年度実績】 (1) 全国大会への助成 2回(8人) (2) 全道大会への助成 9回(111人)
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	全国及び北海道大会に出場する者に対し、その経費の一部を助成することによって、大きな大会への出場も可能となり、平成22年度には全道で優勝などの成績をおさめる生徒もいるなど、児童・生徒の文化の向上に寄与していることから今後も継続する。
根 拠 法 令 等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)
	登別市児童、生徒文化振興助成金交付要綱

事業費(財源内訳)の推移

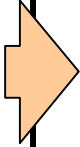
《Plan・Do》

区 分		単位	H22年度 決算	H23年度 決算	H24年度 当初予算	H25年度 見込	H26年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円					
一般財源	名称	千円	352	428	500	500	500
事業費 合計			352	428	500	500	500

指標の推移

《Check》

区 分		単位	区分	22年度 実績	23年度 実績	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	全国大会参加者数 (年度ベース、引率者含む)	人	目標値	10	10	10	10	10
			実績値	7	8			
	北海道大会参加者数	人	目標値	100	100	100	100	100
			実績値	98	111			

現況		《Check》
現状の状態、問題点、課題等《事業前》	具体的な対策、解決の方向性《事業後》	
<p>(1) 市内の小・中学校、高校に在籍し、全国及び全道大会へ出場する児童・生徒に対し、その経費の一部を助成している。</p> <p>(2) 全国大会に出場する助成金申請者にとって、申請する際の助成金算出が困難である。</p> <p>(3) 学校外で行う文化活動の全国及び北海道大会は対象とならない。</p>		
	<p>(1) 文化活動を行っている児童・生徒の文化活動への更なる関心を高めるとともに文化振興を図るため、本年度も引き続き支援する。</p> <p>(2) (3) 要綱の見直しを検討していく。</p>	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可） 《Check》

1. 事務事業の妥当性について		
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	市が主体に行うべき事業である	判断理由及びその他所見 登別市の文化力の向上のためにも出場者の負担を軽減するため、助成は必要である。
	民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である	
	国、道、他団体等との連携や広域化が可能である	
	国、道、民間等の事業と重複・類似している	
2. 事務事業の必要性について		
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	市民、団体等から具体的な要望がある	判断理由及びその他所見 児童・生徒が全国・全道大会に出場することで質の高い文化活動を学び、登別市の文化振興に大きく寄与することから必要である。
	市民アンケートの結果から必要性が高い	
	社会情勢、地域事情等から必要性が高い	
	市民の大部分が関連することから必要性が高い	
3. 事務事業の効率性について		
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	低予算、少労力で高い効果をあげている	判断理由及びその他所見 文化の振興や保護者の経費負担を目的としていることから適正である。
	市で実施するほうが民間委託より効率性が高い	
	多額の経費や労力を要するがやむを得ない	
	将来的に効率性を向上できる	
4. 事務事業の成果について		
目的を達成するための成果はあがっていますか？	成果指標の向上が見られる	判断理由及びその他所見 全国及び北海道大会に出場するものに対し、その経費の一部を助成することによって、大きな大会への出場も可能となっており、児童・生徒の文化の向上だけでなく、登別市の文化振興にも寄与している。
	市民、団体等の声から成果を感じられる	
	目に見える形で成果があがっている	
	成果の把握は困難である	

担当グループによる評価 《Check》

維持	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	学校における文化活動の取組みは活発化しており、全国・全道大会に出場する学校が増加している、学校では旅費の予算の確保に苦慮しており、補助金はこれらの大会に出場する旅費等を助成するものであり、学校での文化活動を支援するために必要である。
----	----------------------	--

行政評価会議による評価 《Check》

維持	備考
----	----